

2024年3月期 第2四半期 決算説明会 Q&A

- 第1回：2023年11月1日 (Q1～Q20)
- 第2回：2023年11月27日 (Q21～Q23)

第1回 2023年11月1日 (Q1～Q20)		
Q1	SPE	来期の中国需要の方向性について、現時点の見方は？
A1		来期についても中国での投資は活発だと考えている。ただし、当社内での中国売上比率は今期より下がり巡航速度的な値（30%程度）になるだろう（今期は前期からの持ち越し分があり、市場全般に比べ高水準のため）。
Q2	SPE	ファウンドリー顧客の米国工場向け売上スライド分（1Q決算で言及）は、今期中に売り上がるのか？また、その先の技術ノード向けの投資動向や、御社の来期増収との見方に変化はないか？
A2		<ul style="list-style-type: none"> ・ 特定のお客様に対する質問への回答は控えさせていただく。 ・ 一般論として、たとえお客様都合のスライドがあったとしても、今下期の計画達成には自信あり。 ・ 最先端投資に関しても四半期程度のずれはあるかもしれないが、確実に実施されると見ている。 ・ 当社の来期も増収増益という見方に、変更は無い。
Q3	SPE	CY2024のWFE市場の見方は？
A3		一桁%台の成長と考えている。メモリーも、先端分野での投資は行われるだろう。
Q4	SPE	中国の投資状況について、前倒し発注などの懸念はないか？
A4		投資は成熟ノード向けであり、実需を背景に投資をされていると考えている。この傾向は当面続くだろう。
Q5	SPE	本日発表した通期の売上・利益見通しを上方修正された背景は？
A5		中国市場の強い状況が、売上増、収益性改善に貢献する見込み。売上予想については、実際の受注に裏打ちされており、達成に自信がある。
Q6	SPE	来期の業績の見方について、中国比率が下がる想定の中、（ミックスが変わっても）増益を見込む背景は？
A6		工場側ではS ³ -5の稼働開始により生産効率がさらに上がることで、販売面では装置の付加価値を上げる活動が結実することの相乗効果によって、増益を見込んでいる。
Q7	SPE	第2四半期の中国向け売上は500億円程度と想定するが、正しいか？また、下期も同様か？来期はどうか？
A7		<ul style="list-style-type: none"> ・ 第2四半期から下期にかけて、四半期500億円前後の理解で正しい。 ・ 来期については、今期売上の中の前期からの持ち越し分は、割り引いて考える必要があり2割程度は下がるだろう。
Q8	SPE	中国向け売上の利益性（率）は、通常のビジネスと比べ、どれくらい良いのか？
A8		収益性の数字については開示できない。ただ、中国向け売上比率が非常に高い第2四半期の営業利益率が、24.2%とかなり良い数字であった点から、推し量っていただきたい。

Q9	SPE	第2四半期の営業利益率が良かった背景は、SU-3200の売上比率が高かったからか？ 中国顧客の売上比率が高いからか？
A9		今回の場合、製品ミックス（SU-3200の売上比率が高い）より、地域ミックスの影響が営業利益率改善に貢献。
Q10	SPE	来期、先端ファウンドリーの立ち上げが始まるが、MOL、BEOL向けの販売比率増は期待できるか？
A10		MOL、BEOL領域への取り組みについては、SU-3200のプラットフォームを使い、お客さまに対して付加価値の訴求を継続していく。
Q11	SPE	中国市場について、足元の景気動向を意識した投資のスローダウンリスク、地場装置メーカーによる模倣リスクや、競合環境についてコメントをお願いしたい。
A11		<ul style="list-style-type: none"> ・現状では、投資のスローダウンは感じていない。 ・模倣リスクについては常にあるだろう。 ・受注の間口を広げ、あえて地場装置メーカーとの競争に飛びこんでいくかどうかは、戦略上の課題。
Q12	SPE	御社が発表された環境対応型温純水供給キャビネットの業績への寄与は、どれぐらい期待できるか？
A12		現状、お客さまに積極的に採用され始めている。こういった環境型の提案もお客さまに対して付加価値を訴求できる技術の一つであり、競争優位性にもつなげたい。
Q13	SPE	中国案件は、出荷タイミングのベースでいうと、どれぐらい先まで受注が入ってきている？
A13		<ul style="list-style-type: none"> ・現在、装置納入までのリードタイムは約6カ月程度であり、第2四半期までに受注しているものは、今期の売上になる。この先に受注するものは、来期売上となるだろう。 ・第3、第4四半期の引き合いはほぼ顔ぶれが見えており、来上期の売上まではかなり見えている状況。
Q14	SPE	来期は、どのアプリケーション向け売上が増えそうか？
A14		当社が得意とするロジック・ファウンドリーが伸びるだろう。メモリーも今年はかなり抑えた投資だったので、われわれの見方では来期は上がってくると見る。
Q15	SPE	GAA（次世代トランジスタ構造）関連の受注・引き合いの状況、収益性やシェアアップについての見方は？
A15		最先端デバイスについては、お客さまとのパイプラインを通じて開発・評価を行っており、十分POR（量産ベースとなるプロセス）を押さえていると認識。先端向けのビジネスにおいても、付加価値訴求の取り組みによって、収益性の改善を追求していく。
Q16	PE	先日リリースされたPEの直接描画露光装置 Ledia 8Fは生成AI向けか？またスペックの開示はまだか？
A16		この装置は従来機より細かい線幅が描画できる高精細モデル。ターゲットは生成AI向けではなく、主にはデータセンター向けのプリント基板である。11月の発売開始に合わせスペックを開示する予定。
Q17	SPE	国立研究開発法人産業技術総合研究所（産総研）のポスト5Gプロジェクトの進捗は？
A17		共同開発を継続している。進捗の開示はできないが、今後時期を見てお知らせしたい。
Q18	SPE	新たに設立された日本の先端チップメーカー向けビジネスの状況は？洗浄装置はどういった機種になるか？
A18		<ul style="list-style-type: none"> ・固有のお客様のビジネスについてお話しできない。 ・当社が持っている機種の中から、お客さまの要望にマッチする装置で対応予定。

Q19	SPE	日本政府の半導体産業の支援策では、製造装置メーカーへの支援はないのか？
A19		現状はデバイスメーカーへの支援が主である。経済産業省には要望なども出しているが、製造装置メーカーに対しては、開発支援や一部の大規模製造設備に対する助成を除き、具体的な支援メニューは聞いていない。
Q20	SPE	中国顧客における支払いや資金繰りのリスクなどの懸念は？
A20		お客さまの資金繰り状況については、コメントを差し控える。
第2回 2023年11月27日 (Q21~Q23)		
Q21	GA	上期は好調だったが、下期予想を弱く見ている理由は？
A21		北米の景況感に懸念があり、下期は弱含むと見ている。GA セグメントは景気連動性が高く、若干慎重に見ている。
Q22	FT	現在ディスプレイ市場は厳しい状況が続いているが、今後の見通しは？
A22		足元では来期につながる受注が取れており、来期の売上イメージが見えてきている。新規事業（エネルギー）のHDへの移管により固定費は軽減されており、来期はブレークインを目指したい。
Q23	PE	今後の見通しは？
A23		市場回復にはまだ時間を要す見込み。新製品の顧客評価が進行中であり、市場回復時の受注へとつなげたい。

HD: ホールディングス、SPE: 半導体製造装置事業、GA: グラフィックアーツ機器事業、
FT: ディ스플레이製造装置および成膜装置事業、PE: プリント基板関連機器事業